

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年12月21日(木)

みんなの居場所

今年も大変お世話になりました。お陰様で充実した毎日を過ごさせて頂きました。

この時期になると1年を振り返ってみるのですが、自分だけで何とかなることもできなかった問題を、多くの人が助けられてきたことに気が付きます。有難い気持ちと感謝の念に堪えません。本当にありがとうございます。

明日から冬休みですが、子供達の気持ちは既にクリスマス、お正月となつていっているので、私自身、少年時代にこの季節をワクワクしながら迎えたものです。父が製パン会社に勤めていた関係で、我が家はこの時期、大量のクリスマスケーキがありました。もちろん我が家のケーキだけでは足りません。そのケーキを母が配達しながら、最後に残ったケーキが我が家の物になりました。そのケーキを眺めながら何となく温かい気持ちになったものです。読者の皆様も、年末年始は家族の団らんと大切にしてください。新しい年の英気を養っていただきたいと思います。 よろしくお願いします。

雑感

今年度も、PTA主催の強歩会が実施される。体力維持のため令和2年度4月から始めたウォーキングだが、強歩会のために最近では毎日のルーティーンとして1万歩、あるいは2万歩を目安に続いている。

週末は自宅をスタートポイントにしているが、ただ歩くだけではブルーニング色が濃くなり、辛さが増す。それを解消するために何か楽しいものを盛り込むことが重要だ。これまでに練習した楽しみの単純にコースを変えたりことから始まったが、それぞれのコースには興味をそそめるものがある。立田山コースでは紅葉、坪井川遊水地公園コースではスイレンと魚…。最近では歩きながら楽しむのはなんでもコース上のポイントが楽しみになっている。例えば美術館。先日は熊田写真館とある団体の書道展が開催されていて頂いたので、お得意を感じてしまった。美術館が館には無数の展覧会が数々あり、お邪魔させて頂く場所だ。あとは博物館もお勧めだ。熊本地震後に内容が一変し、より多くの展示物を見ることができるようになっている。プラネタリウムも覗いて頂くと、びっくりするくらい「わーっ!!!」と心の中で叫んでしまう。原理は簡単なのに、風聞なのになぜか「わーっ!!!」と感動だ。

色々体験している。週末のウォーキングをしている最中だといつとは忘れてしまっている。いつもの間に10kmほどを歩いている。更に、復路に入り、本屋さん、コーヒー店、デパート、種々のお店に立ち寄りながら自宅に帰る。歩行距離を考えると15kmほどになっている。体感できるのは心地よい疲れだ。毎週、この様なウォーキングを繰り返している。今年の強歩会も踏破できるとな気がしている。今から、今年は何人くらい挑戦するのだろうか想像している。

長洲小学校区は、地域全体で何かをやり遂げるためのエネルギーが高いと思う。そういう意味で、私は長洲小学校に着任した直後から、「この地域のために自分は何ができるのか、何をすべきかを考えてきた。なぜなら、学校はそれができる拠点だと思ったからだ。地域全体の活力を上げたいから、地域PTAの総務と連携して、今後何かに取り組むことを考えている。

シリーズ「自分を語る」#144

平成28年度はサラッとお話ししましたが、色々なことが沢山あったな。話は長いことが多いですね。それはまた今度…。
という訳で平成29年度に入りまして、1年間をよやくといつかのことに乗の越えた松澤田、このままではいけないことは十分分かっていました。事務仕事などで出来て当然ですから、私が平成28年度にやっていたことは生半端とはいえないでした。そこで、教職として学校教員目標の達成のために何ができるかを考える必要があらわになり、12月半ばから1月半ばまで練習してきました。しかし、新しいことを何かやるにしても、私の場合まだこれまでに経験してきたことをベースに考えなければ中々進歩が浮かたできません。私が教諭時代、主幹教諭時代にもやっていたこと、周りの人たちはすでに「澤田と言えはナイトハイク」と答えてました。私は学校拍子時代、学級経営の1つのツールとしてナイトハイクを実施していましたが、これが実現できたのは子供達や保護者の皆様との信頼関係がベースにある、実施するための「解決しなければならぬ課題」に対して、加減を考えた素地があったからだと思います。成功させるために何が必要かというポイントが動かし難い理由を考えると、出来な理由を考えると、出来な理由がなかったのです。だから、毎年このように実施することができたのです。

「ナイトハイク」を教頭が拍子代として実施する。…といつとはなりましたが、子供達との信頼関係は、ある程度はできていた。拍子の先生方が子供達と接する時間にはなりました。ましては、保護者の皆様と接する時間は、少なからずあります。PTA執行部の皆さんは、PTAの運営を取り組んで、それと合わせても限られた時間です。そんな中、保護者の皆様や子供達の中に「教頭先生について話し合いたい」という聲が持ち上がりつつあります。その状況は、いきなり「ナイトハイク」をやり始めます。「教頭が言っても、誰も聞いてくれない。そこで、平成29年度に入り、始めたのが教頭便りの執筆です。まずは、私澤田のことを知ってもらおうと書き執筆をスタートしました。学級拍子時代から、学級経営の大きな武器にもなると捉え、力を入れてきたことでした。元来、文章を書くことに苦痛はありませんでしたので、気楽な感じで執筆を開始したことを思い出します。第一号を出したのは平成29年の4月の終わりだったと思います。何となく読者のみなさん文章を読んだので、反省、第2号からシリーズ「自分を語る」を書き始めました。今でも追加修正を加えながら執筆しています。自分の事を素直に話していいこと、私自身を知ってもらおうと書きたかった。お母さん、お茶でも飲みながら書いています。別に、読者の皆様からの返信もありません。感想、意見、指摘、自分の事について、多くの意見、感想を頂くようになりました。不思議なもの、他の記事よりも「自分を語る」を楽しみにしていらっしゃる方が多く、次が気にならなから、甲斐も出てきた。等々の意見を頂く事もありますが、クダや病気のくだりが最も人気があります。この校長便り、当時の作文がベースになっています。(ついで)